

翔

2008 December No.195

百万石蝶談会



金沢市医王山でシータテハを採集

細 沼 宏

筆者は、石川県金沢市医王山にて、シータテハを採集した。石川県では、白山周辺以外では確認例が少ないため、報告する。医王山の標高は939mあり、今回採集した西尾平の標高は約650mである。これまでに観察されているのは、標高約500mの医王の里（松井、1992）だけと思われる。



シータテハ 2008年10月3日 石川県金沢市医王山西尾平 1頭 細沼宏

《 参考文献 》

松井正人 (1992) 石川県のタテハチョウ4. 翔(99):1-4.

《ほそぬま ひろし 〒920-0276 内灘町緑台2-122》

石川県舳倉島10月の蝶

矢 田 新 平

10月5日から7日にかけて石川県輪島市の舳倉島へ行き、7日には学校の運動場、民宿「司」前の広場、船着場の公園で、蝶を多く観察したので報告する。

■2008年10月7日 石川県輪島市舳倉島 矢田新平

ヤマトシジミ	3頭採集30頭以上目撃	ルリタテハ	1頭目撃
ウラギンシジミ	1頭目撃	ヒメアカタテハ	17頭採集10頭以上目撃
モンシロチョウ	2頭採集10頭以上目撃	アカタテハ	3頭採集
モンキチョウ	2頭採集20頭以上目撃	イチモンジセセリ	4頭採集30頭以上目撃

これまでに島で観察されていたキタテハ、ベニシジミ、ルリシジミは観察できなかったが、10月4日にはアサギマダラが観察されていたようで、春より秋の方が、蝶はがぜん多いと思われる。

《やた しんぺい 〒923-0802 小松市上小松町丙192-8》

エゾミドリシジミの人工採卵に関する1所見

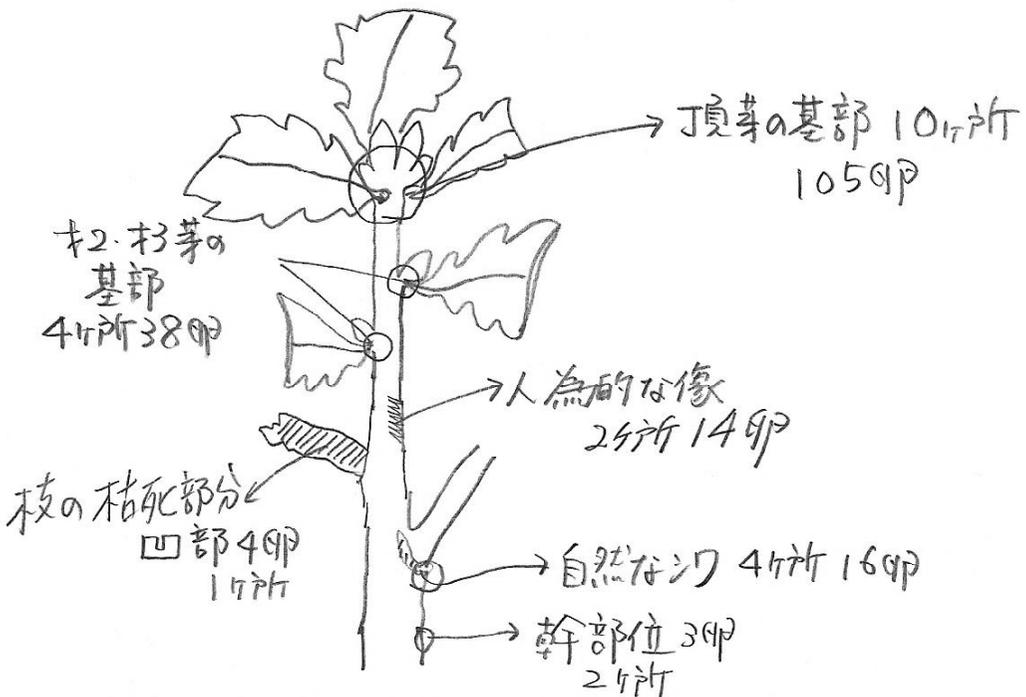
勝海雅夫

2008年7月中旬頃に、石川県金沢市医王山で採集したエゾミドリシジミを使い、人工採卵を実施したところ10数卵程度を産んだところで、8月上旬に不慮の事故で死亡した。野外では、エゾミドリシジミを枝のしわや直径20mmから30mmの枝の分岐などから採卵しており、この時は、その産卵部位を考慮に入れた枝を中心とした人工採卵を行い、産卵された部位は野外で観察した場所とほぼ同様な場所だった。

同年8月20日に同所にて再びエゾミドリシジミの♀を採集する機会があり、頂芽が太ったミズナラの良い芽と一緒に持ち帰り、再度人工採卵を試みたところ、以下のように180卵を得ることができた。そのうち、エゾミドリシジミが最も多く産卵したのは頂芽であり、頂芽に産卵する傾向が強いのではないかと考えている。

エゾミドリシジミの産卵部位と産卵数

産卵部位	産卵数	産卵%
頂芽の基部	105卵	58.3%
第2第3芽の基部	38卵	21.1%
自然なシワ	16卵	8.9%
人為的な傷	14卵	7.8%
枝の枯死部の凹部	4卵	2.2%
幹部	3卵	1.7%
合計	180卵	100.0%



《かつみ まさお 921-8051 金沢市黒田1丁目49-1》

エゾゼミ類の抜殻調査2008

松井 正人

石川県には、エゾゼミ、コエゾゼミ、アカエゾゼミと3種のエゾゼミの仲間が生息している。エゾゼミは加賀から能登まで生息範囲は広く、コエゾゼミは金沢以南のブナ林で、アカエゾゼミは数カ所で数個体が観察されているに過ぎない。

そこで2008年の調査場所は、アカエゾゼミが生息しそうなブナ林とし、車道が近くまで延びている、金沢市医王山蛇尾山、小松市花立峠、白山市桑島大嵐山、白山市中宮大瓢箪山（おおふくべやま）登山道、白山市一里野檜倉尾根とした。

セミの調査は、その特徴のある鳴声によって行われるのが普通であるが、エゾゼミ類の鳴声はよく似ているので、声から判断するのは難しく、成虫や抜殻による判別が必要になる。しかし、成虫は高い梢に止まっていることが多く、なかなか観察することができないので、最も簡単と思われる抜殻採集によって調査を行った。

見つけた抜殻は、コエゾゼミ6個、エゾハルゼミ5個で、エゾゼミとアカエゾゼミの抜殻は見つからなかった。今回の調査地の標高は1000m前後だったため、エゾゼミは見つからないにしても、コエゾゼミはもう少し見つかるかと予想していた。今回全く見つからなかった医王山蛇尾山では、前年の2007年にコエゾゼミが、7月25日2♀、7月28日2♂2♀（松井、2007）見つかっていることから、2008年はコエゾゼミあるいはエゾゼミ類の発生が少なかった可能性がある。反対に、2007年の発生が多かったのかも知れず、新たに発生量の継続調査の必要性を感じている。

■調査結果

①金沢市医王山蛇尾山（調査範囲：標高860～900m）

調査日 2008年7月12日、7月19日、7月21日、7月27日

車道の夕霧峠から蛇尾山の頂上付近を通り、白兀山に至る登山道が有る。この登山道の両側にあるブナなどの幹から抜殻を探したが、全く見つからなかった。

②小松市花立峠（調査範囲：標高980～1000m）

調査日 2008年8月31日

車で峠まで行くことができ、峠には太いブナの林があったが狭く、抜殻は見つからなかった。周辺には、伐採後あまり年月が経過していないと思われる背の低い雑木林が続き、その中に細いブナの木が混じっていたが、抜殻は見つからなかった。

③白山市桑島大嵐山（調査範囲：標高900～1120m）

調査日 2008年8月15日

林道終点の駐車場から大嵐山遊歩道を峠へと登り、峠で右の大嵐山へ折れ背の低いスギ林を抜けると、太さ20～40cm程度のブナ林がある。かなりの広さが草刈りされていて抜殻

が探し易く、ここで抜殻を採集した。峠から左に進んでもブナ林は有り、地形はなだらかで探しやすいが、太いブナは少なく抜殻は見つからなかった。

コエゾゼミ 8月15日 1♂

エゾハルゼミ 8月15日 1♂

④白山市中宮大瓢箪山登山道（調査範囲：標高960～1050m）

調査日 2008年7月13日、7月26日

中宮温泉スキー場の上部に登山口が有るが、登山道沿いに太く大きなブナが無く、しばらく進むと細いブナも無くなる。2度の調査で、エゾゼミ類の抜殻は見つからなかった。

エゾハルゼミ 7月26日 1個

⑤白山市一里野檜倉尾根（調査範囲：標高1100～1200m）

調査日 2008年7月26日、8月9日、8月15日

標高1100m付近まで車で入り、登山道を歩き始めると20分ほどで草刈りされた公園のようなブナ林に着く。隣接して出作り小屋でもあったような立派なスギ林があり、ここから下り坂となって木実谷頭（きのみだにかしら）を過ぎ、しばらく登るとテント場のように草刈りされたブナ林に着く。草刈りされていると抜殻を探し易く、公園のようなブナ林とテント場のようなブナ林で、抜殻を見つけた。

コエゾゼミ 7月26日2♂、8月9日2♂1♀

エゾハルゼミ 7月26日1♂1♀、8月9日1♀



大木の幹に絡みついたイワガラミで見つけた泥だらけのコエゾゼミの抜殻(テント場のようなブナ林)
2008年8月9日 白山市檜倉尾根(標高1200m)



大木の幹で見つけた泥だらけのコエゾゼミの抜殻(公園のようなブナ林)
2008年7月26日 白山市檜倉尾根(標高1200m)

《参考文献》

松井正人（2007）金沢市医王山蛇尾山におけるエゾゼミ類の抜殻調査．翔(188):3.

《まつい まさと〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2004年石川県のアサギマダラマーキング概要

松 井 正 人

2004年の石川県におけるアサギマダラのマーキング状況を集計した。標識情報は月別場所別に標識頭数をまとめ、標識者情報は「あいうえお」順とし、再捕獲情報は再捕獲日順に並べた。

2004年は、これまでほとんどマーキングできなかった5月と6月に、海岸に生えるスナビキソウ周辺で、多くのマーキングが行われた。9月になると、宝達山では頂上近くにある「山の龍宮城」の橘 英子さんらが中心となって毎日のようにマーキングが行われ、宝達山を訪れた多くの人がマーキングを体験した。また、宝達小学校と喜界島の滝川小学校は、アサギマダラの再捕獲が縁となって学校交流が始まり、宝達小学校の児童は、喜界島でマーキングを行った。輪島市舳倉島分校においてもマーキングが始まり、石川県内のマーキング活動は、益々盛んになった。

■2004年標識情報（標識数：1771頭）

	標識地	5月	6月	7月	8月	9月	計
1	輪島市舳倉島		5				5
2	輪島市町野町大川浜	12	34				46
3	珠洲市宝立山			10			10
4	輪島市鉢伏山		5	568	126	2	701
5	輪島市宝立山		1		14	25	40
6	輪島市高洲山		1	14	1	4	20
7	輪島市三井町					1	1
8	輪島市上大沢町アタケ浜		4				4
9	門前町深見海岸		30				30
10	富来町鹿頭海岸	10	7				17
11	富来町赤崎海岸	10	1				11
12	富来町増穂ヶ浦	14	6				20
13	志賀町甘田海岸	61	3				64
14	羽咋市一宮海岸	26	12				38
15	押水町宝達山					598	598
16	押水町北川尻海岸	7					7
	能登計	140	109	592	141	630	1,612
17	かほく市二ツ屋海岸	4					4
18	内灘町内灘海岸	4					4
19	金沢市粟崎海岸	5					5
20	金沢市菊水		1				1
21	金沢市国見					1	1
22	吉野谷村中宮				1		1
23	尾口村一里野		1		47		48
24	尾口村荒谷				95		95
	加賀計	13	2	0	143	1	159
	総計	153	111	592	284	631	1,771

■2004年標識者情報（標識者数：165人）

荒木 重明、荒木 道代、赤池 康明、赤池 涼香、井上 教子、井上 節子、井上 篤志、井上 遼太郎、市村 昭代史、上井 大規、上森 美鈴、上田 妙子、奥村 なおみ、奥村 源也、奥村 勝、奥村 優華、岡部 寛大、岡部 功大、岡本 巧、荻田 琢巳、桶矢 和美、近江ひかり、大蔵 成子、大路 閑、大路 真央、表 達也、加藤 真弓、角田 とよこ、角田 進、角田 和嘉、金津 五雄、上川 雅史、川崎恵一朗、北 麻奈、北村 邦子、木村 瑛、木村 理、木村 玲、蔵岡 嵩之、越野 葵、小西 美津代、佐々木 秀和、佐々木 俊輔、佐々木 美津子、佐野 順子、坂井 節子、坂本 拓也、坂本 洋子、酒井 久美子、斉藤 喜久雄、塩本 みちよ、重山 やちよ、重山 長徳、庄田 満枝、清水 峻太、杉野 一美、末森 伍志、末森 潤、館 憲祐、館 哲夫、橘 英子、橘 隆春、橘 幸輝、高崎 彩香、高崎 理花、高島 雅一、高野 静子、田中 香里、武田 能理、千葉 賢三、綱 たつき、綱 ちか子、綱 みほ、

綱 文雄、徳持 英莉、徳持 武忍、徳持 陽美、徳持 吏恵、中村 明美、長田 裕輔、長田 美也子、長尾 喜信、長尾 奈央子、西谷 章子、はしづめ けんじ、羽田 伸一、橋本 ゆき恵、橋本 竜規、畑 大樹、林 宏亮、林 功貴、濱田 秀一郎、濱田 秀経、濱田 裕美子、濱田 洋子、東谷 忠勝、東野 静香、樋口 篤、樋口 陽平、日吉 芳朗、太嶋 和宏、藤本 惇芳、福岡 亜紀子、福岡 洋子、平畠 実季、平畠 紳也、平畠 佳奈、別宗 妙子、堀 孝治、堀 千恵子、本道 純一、本道 美紀子、松井 正人、松井 勉、松栄 美佑、松田 かおり、松田 夏海、松田 健人、松田 健二、松田 賢太郎、松田 将嗣、松田 隼輝、松田 美雪、松田 龍二、松田

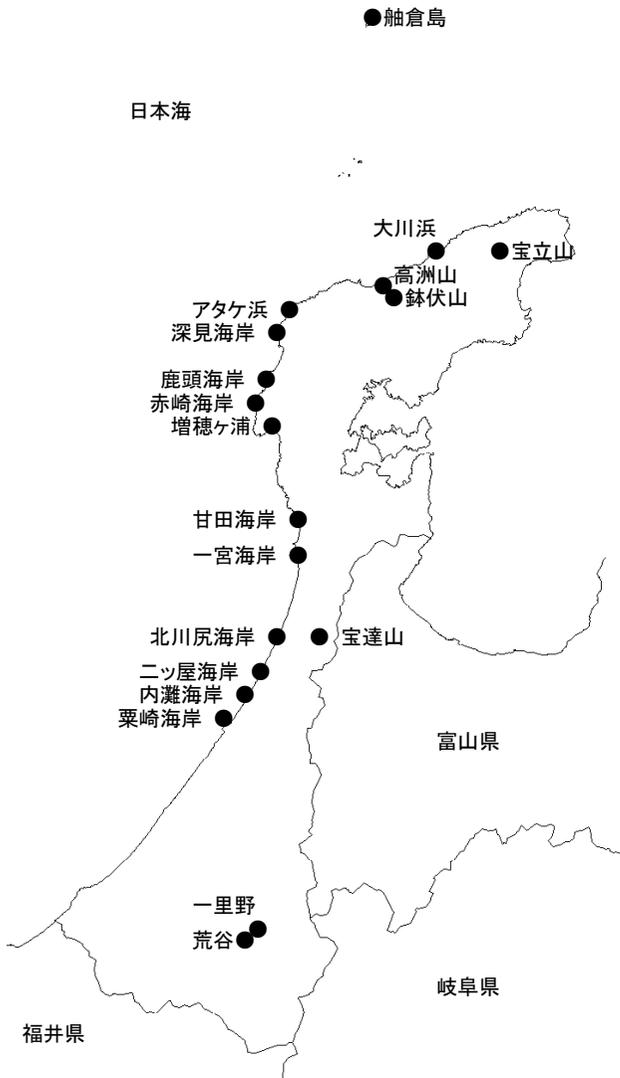


図-1. 2004年の主な標識地点

健二、松榮 美希、前田 賢、前田 幸治、前田 祥、前田 美恵子、南 祐治、宮下 尚、宮城 信男、宮田 博、宮本 恵有、宗広 真喜子、村井 美優、村井 梨華子、安田 幸子、山崎 みずほ、山崎 絵蘭、山崎 健太、山崎 陽介、山前 安輝、山前 雅裕、山前 圭司、山前 地史、山前 直子、山前 奈緒美、山田 政樹、山田 遼、山田 啓次、山田 聖也、山田 優希、山本 さおり、山本 雅信、山本 快武、山本 桃子、山本 やすこ、山本 唱子、山本 麻佐雄、柳橋 美希、柳橋 香織、湯上 翔太、吉村 美智江

■2004年再捕獲情報（再捕獲数：11頭）

番号	標識	性別	標識日	標識地	標識者	再捕獲日	再捕獲地	再捕獲者	移動距離	日数
1	石ひよし 451	♂	7/28	石川県 輪島市 鉢伏山	日吉芳朗	8/20	山梨県 早川町 奈良田越	臼井節夫	235km	23日
2	石ひよし 668	♂	8/11	石川県 輪島市 宝立山	日吉芳朗	9/18	群馬県 赤城村 赤城自然園	青木 悟 櫛田由佳	200km	38日
3	ほうだつ 9/12 にしたに	♂	9/12	石川県 押水町 宝達山	西谷章子	10/7	愛知県 田原市 衣笠林道	星野京子	240km	25日
4	石ひよし 683	♂	9/6	石川県 輪島市 宝立山	日吉芳朗	10/11	大阪府 高槻市 芥川流域	榊田初美	320km	35日
5	石ひよし 569	♀	8/2	石川県 輪島市 鉢伏山	日吉芳朗	10/14	大阪府 高槻市 芥川河畔	林 久明	300km	73日
6	石ひよし 352	♂	7/27	石川県 輪島市 鉢伏山	日吉芳朗	10/15	大阪府 高槻市 芥川釣堀	蒲田寿明	300km	80日
7	ほうたつ IMM 673	♀	9/18	石川県 押水町 宝達山	松井正人	10/16	高知県 土佐山田町 龍河洞	山崎三郎	450km	28日
8	りの IMM 336	♀	8/1	石川県 尾口村 一里野	松井正人	10/17	高知県 室戸岬 スカイライン	荒川 良	410km	77日
9	ほうたつ IMM 572	♂	9/12	石川県 押水町 宝達山	松井正人	10/23	三重県 南島町 東宮鶉倉園地	久保文香	280km	41日
10	ほうたつ IMM 535	♂	9/12	石川県 押水町 宝達山	松井正人	11/13	鹿児島県 十島村 中之島	山田隆三	1,000km	62日
11	ほうだつ 9/19 つな	♂	9/19	石川県 押水町 宝達山	綱 文雄	11/17	鹿児島県 大島郡 喜界島川嶺	福島 誠	1,140km	59日

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県珠洲市でニホントビナナフシを観察

松井 正 人

珠洲市唐笠で雑木林の伐採跡地を見つけ中に入ったところ、大きな切り株からたくさんの枝が眼の高さ程度に伸びていた。伐採跡地の若枝にはムラサキシジミが産卵するので、探しているとトビナナフシの幼虫が見つかった。ナナフシ類は、



ミズナラの葉裏にピタリと張り付いているトビナナフシの幼虫
頭部と前胸背にダニが付いている(2008年7月11日撮影)

のっそりと動きが鈍いと思われがちだが、トビナナフシの幼虫は素速く、見つけたと思ったとたんにスルリと逃げられてしまう。この時は、大きさもまちまちで色々な齢数の幼虫6頭を見つけ、どうにか4頭を採集することができた。ダニが付いていた2頭を含め3頭は飼育途中で死んでしまったが、1頭は9月28日になって、ようやく成虫に脱皮しニホントビナナフシと確認できた。

2008年7月11日 石川県珠洲市唐笠 ニホントビナナフシ 1幼 松井正人



9月28日になってようやく成虫に脱皮したニホントビナナフシの♀(2008年10月29日撮影)

《まつい まさと〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■オナシクロアゲハ再び

話は二ヶ月ほど遡るが、輪島市で尾無し
のクロアゲハが記録されていた。今回も前
回同様に日吉氏が吸水個体を観察してい
る。2002年の記録から3頭目となり、やは
り輪島は尾無しの因子が濃いようだ。

■極細ペンはプスリに注意

アサギマダラのマーキングでは、油性の
フェルトペンを使っているが、極細は要注
意。のんびりマーキングしている時は良い
が、飛来数が増えたくさんマーキングしよ
うとすると、ついつい力が入ってしまい、
羽にプスリと穴があいてしまう事がある。

■オオミスジ調査は10月がお勧め

3月からオオミスジの生息調査をしてき
た松井氏、10月は食痕が目印になって幼虫
が見つけ易いと勧められるが、暑くも寒く
もなく調査し易いのが一番の理由かも。

■ザリガニ退治

いつの間に入ったのか、シャーゲンの池
にアメリカザリガニがいっぱい。水草だら
けの澄んだ池が黒く濁り、月刊むし444号
に永幡氏が報告した写真そのものだった。
採っても採っても採りきれないが、とにか
く採り続けるしかない。

■食草お助けマン

沖縄で採集してきたセセリやタテハに産
卵させたが、食草が無い。こんなとき、昆
虫館に聞いてみると、だいたいの食草は
揃ってしまうが、昆虫館にも無いとなると、
頼みの綱は植物園、○×大学の先生に尋ね
てみよう。

■輪島市三ツ子浜から大分県姫島へ

6月に日吉氏が、三ツ子浜でマーキング
したアサギマダラが、10月になって姫島で
再捕獲された。6月のアサギマダラは、北
上先で死んでしまうと考えられていたが、
今回の再捕獲で、北上組が南下組に転じて
10月になって生きていたことが初めて分
かった。また、日吉氏は、このマーキング
の5日前に、同じ場所で姫島からの飛来個
体を2頭も再捕獲している。

■超小型種の軟化展翅

採集した蝶はすべて展翅してしまう日吉
氏、沖縄から帰ってからは連日採集品の軟
化展翅に取りかかっている。シロウラナミ
などの小型種までは快調だったが、ホリイ
コ、シルビア、タイワンヒメと続くと、さ
すがの日吉氏も苦労している。

■幻の「ハコダテ」マーク

10年の長期にわたりマークすれども再発
見されなかった、まぼろしの「ハコダテ」
マークが愛知県で見つかった。予想されて
はいたものの、アサギマダラが実際に津軽
海峡を横断していることが確かめられた。
まだ、見つかってはいないが、さんご礁の
島を飛ぶ「ハコダテ」マークを想像すると
楽しくなってくる。

■バラ集めにおおわらわ

細沼氏、百万本のバラでは無いが、バラ
集めに苦労している。ヤクルリの幼虫をご
まんと飼っているが、花屋のバラには恐ろ
しくて手が出せず、天然のバラを探して藪
に分け入っている。

■ 萎える採集意欲と展翅意欲

細沼氏の所は、いつ行っても大小いくつもの飼育容器が置かれ、色とりどりのチョウが載った展翅板がズラリと並んでいるのには驚いてしまう。今年の展翅は2頭と採集意欲も展翅意欲も衰えてきた身には、何ともうらやましい。

■ 癒し系のひょうきん顔

病あけの気分転換に採卵しようと医王山に向かった浅野氏、堂辻付近でヤスマツトビナナを発見し、いっぺんに虜になってしまった。現在飼育中で、毎日眺めている。

■ 雪が降る前に

強制採卵でボロのフジミドリから卵を得ても、孵化率を上げるには暑い夏を涼しい場所で越させる必要がある。そんな理由からか、医王山には卵が入った袋がいつも下がっていたが、そろそろ回収に行かないと、雪が積もって回収できなくなる。

■ 例会の記録 ■

10月16日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

夏休みの一研究で、中学生が提出した昆虫標本について松井氏が報告。内容は、エゾカタビロ、ムネアカセンチ、アオマダラタマと、かなりのものが揃っている。井村会長いわく、良き指導者の下で確実な同定を覚えれば将来が楽しみ。

その他の話題は、山のクロアゲハの食草は、アサギマダラの標識数と再捕獲は過去最高、オオミスジの幼虫調査は10月が旬、ツマグロヒョウモンだけは元気、今年もアカトンボが少ない、ミークワ幼虫の生態は分かっていない、街で拾った大きなクワガタ、などなど。

参加は、浅地、山岸、井村、勝海、松井の5人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

細沼 宏：金沢市医王山でシータテハを採集	1
矢田新平：石川県舳倉島10月の蝶	1
勝海雅夫：エゾミドリシジミの人工採卵に関する1所見	2
松井正人：エゾゼミ類の抜殻調査2008	3
松井正人：2004年石川県のアサギマダラマーキング概要	5
松井正人：石川県珠洲市でニホントビナナフシを観察	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔

195号

Tobu

2008年12月10日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121

☎076-258-2727

郵便振替

00750-8-562

印刷

小西紙店印刷所

